

岩手県山田湾における蜃気楼の研究報告

大鐘卓哉（小樽市青少年科学技術館）

1. はじめに

北海道小樽沖での蜃気楼を記述した江戸時代の文献[1]には、岩手県山田湾でも蜃気楼が見られたという記述がある。しかしながら、山田湾における現代での蜃気楼発生を確証する写真等の資料は残されておらず、蜃気楼の研究は体系的に行われていなかった。そこで、本研究では、山田湾における蜃気楼に関する文献や資料の調査をまとめるとともに、蜃気楼の発生の有無を確認するための調査・観測を行った。

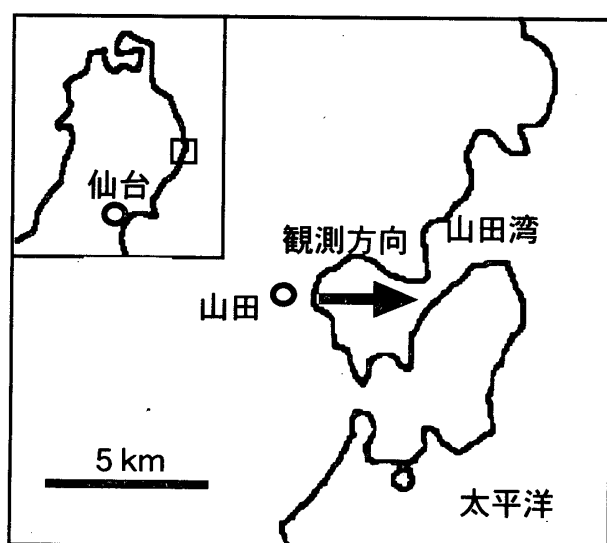


図1 山田湾の位置と観測方向

2. 観測・調査

山田湾では、2002年と2003年にデジタルカメラを設置し、インターバル撮影されたそれらの画像から蜃気楼の発生を確認する観測を行った。

また、蜃気楼に関する情報を、山田町の郷土史研究家から提供を受けた。さらに地元の住民から蜃気楼に関する聞き取り調査を行った。

3. 結果

デジタルカメラによる観測の結果、2003年5月3日の画像から若干の風景の伸びが観察され、上位蜃気楼が発生したことを確認できた。

また郷土史研究家からは、かつて山田で蜃気楼が見られたことを示すものとして、「遠野物語[2]」「筆満可勢[3]」をはじめ、明治期に読まれた漢詩[4]や新聞報道[5]、昭和期の「山田音頭[6]」の資料を提供を受けた。

そして聞き取り調査の結果、複数の山田町民から蜃気楼を見たことがあるとの証言を得た。

4. まとめ

江戸時代において蜃気楼が見られたことを示す文献があり、観測を行ってみると現代でも上位蜃気楼が発生していることを確認できた地域（石狩湾[7]、津軽海峡[8]、伊勢湾[9]）と同様に、山田湾でも現代において上位蜃気楼が発生していることが確認できた。今後、他の地域でも観測を行えば上位蜃気楼の発生を確認できる可能性がある。

参考資料

[1]松浦武四郎,1850,三航蝦夷日誌 [2]遠野常民大学編,1997,筑摩書房,注釈遠野物語 [3]藤原衆英,1841-42,筆満可勢（東北大学付属図書館蔵）[4]阿倍長俊（浜村半蔵,1979,阿倍長俊小傳 [5]日進新聞,1878年7月31日 [6]端山芳秋作詞,1977,山田音頭 [7]大鐘卓哉,2001,石狩湾の小樽沖に発生する上位蜃気楼,気象学会春季大会予稿集p350 [8]大鐘卓哉,2002,北海道における上位蜃気楼に関する調査結果,気象学会秋季大会予稿集p363 [9]大鐘卓哉,2001,江戸時代に見ることができた四日市の蜃気楼は現代でも発生していた,気象学会秋季大会予稿集p330

謝辞

本研究では、山田町郷土史研究家佐々木久夫氏より蜃気楼に関する情報を頂きました。感謝申し上げます。